

で示された主な意見

- 今回の諮問は非常に時宜を得たものである。情報のスピードや量が拡大している中、今後は情報の質が問われる時代となっており、耐災害性技術、ユニバーサルコミュニケーション技術、脳情報通信などは、質を上げる点で重要だと考える。これらの点も含めて強力に打ち出せるような戦略に期待する。
- NICTで有期雇用の職員が増えているが、技術を継承していく上で、技術者の安定した処遇について検討していく必要があるのではないか。
- NICTが取り組んでいる多言語翻訳技術について、自ら利用してみた感想としては、中国語や韓国語は非常に優れていると評価する。英語についても、さらに取組みを進めて欲しいと感じている。
- ICT分野の研究開発は非常に重要。第4期科学技術基本計画においては、ICTは共通的技術として位置づけられていたが、課題解決のツールとしてだけでなく、ICTそのものを高めていくことが重要であり、第5期科学技術基本計画の議論に向け、しっかり取り組むことが必要。
- 現在のNICTの研究領域として4つの領域が示されているが、それぞれが縦割りにならないように留意すべき。例えば、脳の研究において、ナノテクが活用されるなど、融合分野の研究も進んでいる。また、近年いわゆるデュアルユースの研究開発についても進められるようになっており、これらも含め意見交換していくことが考えられるのではないか。
- 知財戦略が重要。研究開発と併せて知財戦略についても議論すべき。